

「サイバーセキュリティトレーニングセミナー」に参加 ～群馬損保会会員保険会社より、サイバーリスクへの備えや保険の必要性について助言～

日本損害保険協会 関東支部 群馬損保会（会長：上杉 克・東京海上日動火災保険株式会社 群馬支店長）では、群馬県中小企業等サイバーセキュリティ支援連絡会（事務局：群馬県警察サイバーセンター）等が主催する「サイバーセキュリティトレーニングセミナー」に損害保険業界の立場として参加しました。

全国的にサイバー攻撃の件数は増加傾向にあり、最近では、ランサムウェアによる手口や高額な損害を伴う事故も増えており、サイバー攻撃の被害に遭った場合に生じる損害は、多額な金銭の損失だけでなく、企業の信用失墜にも繋がりがかねない極めて大きなものとなります。

このようなサイバー攻撃の脅威に対しては、各企業・団体において、日頃からの準備・対策が必要不可欠であることから、同支援連絡会では、実際に事業所がサイバー攻撃を受けたと想定した机上トレーニングを行うこととし、2月6日（木）に群馬県庁昭和庁舎にて開催し、群馬県内の中小企業および県内医療機関等のセキュリティ担当者またはシステム担当者約30人が参加しました。

なお、群馬県警察サイバーセンターからは、昨年8月に締結したサイバー連携協定を踏まえ、群馬損保会からも参加して、損害の復旧や賠償に備えるサイバー保険付保の必要性についての助言や保険設計の提案等を行ってほしいとの要請があり、サイバー保険を取扱う会員保険会社7社から社員が参加しました。

セミナーでは、数名のグループになり、参加者が銀行のシステム部門のセキュリティ担当者という想定で、警察からの情報により、参加者が勤める銀行の社内システムにおいて外部との不審な通信が確認されたため、感染等の事実を調査していくという流れで、端末を利用している職員からのヒアリング情報や警察の情報等からサーバーや端末のログの解析を行ったうえで、①段階的に対処方針を検討～②経営層への報告～③広報（対外発表）といった必要な対応を模擬的に実践しました。

その中で、保険会社社員からは、解析の資金不足や調達といった深刻な問題に対し、サイバー保険の概要や必要性、実際に保険を利用した事例、保険を検討するうえでのポイント等について、グループごとに参加者に対して的確なアドバイスや説明を行い、サイバー保険について理解を深めてもらいました。

終了後のアンケートでは、「基本的な知識が不足しており解析が難しかった。」という意見が多かった一方で、「グループワークでみんなで話し合っ意見を出し合うなどして大変勉強になった。」「参加型方式だったことでサイバー攻撃を身近に感じられた。」「様々な業種の方々と交流が出来て良かった。」「今後も継続してやってほしい。」といった意見が有り、概ね好評であったという結果が出ています。

群馬損保会では、今後も群馬県警察と協力して効果的な取組みを行うとともに、県内の関係機関・団体等とも連携しながら、企業等への情報提供や注意喚起に鋭意努めて参ります。



【群馬県警 武島サイバーセンター長の挨拶】



【グループワークの様子①】



【グループワークの様子②】